カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム）の記録
対象：ジャパンボウル（米国・カナダ）

１．プログラム概要

対日理解促進交流プログラム「カケハシ・プロジェクト」として，米国及びカナダから高校生及び引率者 51 名が 2019 年 7 月 17 日～7 月 24 日の日程で来日し，日本の政治，経済，社会，文化，歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義，視察，日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち，各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また，帰国前の報告会では，訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：43 名

カナダ：8 名

【訪問地】

東京都(全員)，北海道(グループA)，岩手県(グループB)

２．日程

7/17(水)	【来日】	
7/18(木)	【オリエンテーション】 【講義】SIMA 国際経営研究所　所長　木村 秀夫 氏	
	(1) グループ A：北海道	(2) グループ B：岩手県
	東京都から北海道へ移動	東京都から岩手県へ移動 【学校交流】岩手県立盛岡第一高等学校
7/19(金)	【文化体験】座禅・茶道(瑞龍寺) 【学校交流】北星学園大学附属高等学校 【ホームステイ対面式】	【文化体験】キーホルダー作り(流工房) 【視察】小岩井農場 【ホームステイ対面式】
7/20(土)	【ホームステイ】札幌市	【ホームステイ】盛岡市
7/21(日)	【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ（報告会準備)】 北海道から東京へ移動	【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ（報告会準備)】 岩手県から東京都へ移動
7/22(月)	【表敬訪問】高円宮妃殿下 【視察】明治神宮・原宿・東京タワー	
7/23(火)	【表敬訪問】安倍昭恵総理夫人 【交流】ジャパンボウル・サポーターズグループ(JBSG)交流会， よさこいソーラン体験	

	【レセプション】ジャパンボウル関係者との交流
7/24(水)	【成果報告会】 【離日】

３．プログラム記録写真

全グループ（東京都）

7/18【オリエンテーション】	7/18【講義】SIMA 国際経営研究所 所長　木村 秀夫 氏
7/22【表敬訪問】高円宮妃殿下	7/23【交流】ジャパンボウル・サポーターズグループ(JBSG)交流会，よさこいソーラン体験

グループ A（訪問地：北海道）

7/19【文化体験】座禅・茶道(瑞龍寺)	7/19【学校交流】 北星学園大学附属高等学校

7/20【ホームステイ】札幌市	7/21【ワークショップ（報告会準備）】

グループＢ（訪問地：岩手県）

7/18【学校交流】 岩手県立盛岡第一高等学校	7/19【文化体験】キーホルダー作り （流工房）
7/20【ホームステイ】盛岡市	7/21【ホームステイ歓送会】

４．参加者の感想（抜粋）

グループＡ（訪問地：北海道）

◆　米国　学生

ホームステイは，日本文化を直に経験できる素晴らしい機会でした。日本の習慣についてより深く学ぶことができ，ジャパンボウルのための勉強で学んだ日本の習慣を実践することもできました。例えば，私がホームステイした家庭ではお風呂に入るのに決まった順番があります。最初が年長者，次がお客様で，最後は残りの家族が年齢順に入ります。この旅の中で私のお気に入りの思い出の一つが原宿に行ったことです。原宿の通りを歩き，現代のポップカルチャーをたくさん体験することができました。

◆　米国　学生

日本の高校を訪れたとき，まるで自分が有名人になったような気持ちになりました。私たちがまだバスに乗っているのに，多くの人たちが手を振ってくれました。皆とても親切で面白い人たちでした。剣道を間近で見るのは初めてでした。日本で同年代の人たちに出会えたことは，素晴らしいことでした。高円宮妃殿下への表敬訪問は，旅の中で最も素敵な出来事でした。皆とても緊張していました。妃殿下は温かく迎えてくださり，とても気さくなお人柄が伝わってきました。ホームステイは，今回のプログラムで最高の経験でした。日本の生活を直に体験し，日本の文化と伝統に自分の身を置くことができました。私のホストファミリーは信じられないほど親切で，私が上手に日本語を話せなかった時も，私のことをよく理解して下さいました。買い物に連れ出して下さり，地元の名物を紹介してくれました。ホストファミリーと素晴らしい時間を過ごしました。またいつの日か会えることを願っています。そのほかでは，夜の町の探検を心から楽しみました。何人かのグループで散策し，違うお店やコンビニエンスストアに入ったり，小さな公園の間を歩き回ったりしました。近所をただ散歩するというだけのことですが，それができたことが素晴らしくて，日本にどっぷりとつかることができたように感じました。

グループＢ（訪問地：岩手県）

◆　カナダ　学生

日本経済についての講義が特によかったです。日本についての統計上のデータ，直面している課題，そしてそれを解決するためにどれだけ努力しているかを学ぶのはとても面白かったです。講義は，終了予定時刻の 11 時 30 分ぴったりで終わり日本人がいかに時間を守る人々かということも学ぶことができました。高円宮妃殿下への表敬も大変興味深かったです。私達からの質問に対するお言葉からも妃殿下のお考えや様々なことをお伺いし，本当に多くのことを学ばせていただきました。また，ホームステイの時間もとても楽しかったです。ホストファミリーはとても思いやりがあり，家族のように私の面倒を見てくれました。とても楽しかったので，いつの日か再会したいですし，SNS でやりとりを続けたいと思っています。日本に来たのは今回が初めてです。日本の習慣についての知識があっても，経験に勝るものはないと実感できるプログラムでした。

◆　米国　学生

講義はとても面白かったです。日本の経済，ビジネス，政治について学びました。例えば（三菱）財閥はいくつかの国の GDP より大きな財力をもっていることなどを勉強しました。学校交流のお茶会はとても楽しくて興味深かったです。私にとっては初めての体験でしたが，とても美しい文化体験でした。アニメやマンガやドラマの中で茶道文化を見たことがありましたが，実際に体験できたことは素晴らしかったです。学校や玄関で靴を履き替える習慣も体験できて嬉しかったです。訪ねた企業や政府の建物はとてもきれいに整理されていました。ホームステイでは，日本に住む方々に出会い，ホストファミリーと同じように日常を過ごすことは素晴らしい体験でした。日本のテレビを見るなどの日常の家庭生活を体験できました。家族の皆さんが温かく受け入れて下さったので，決して忘れられない思い出になりました。再び日本を訪れホストファミリーにぜひまた会いたいと思っていますが，次回は私がもてなす側になりたいです。私は，日本の様々な機能があるトイレが気に入りました。この機能のすばらしさは，もう単なるトイレとは言えないと思います。それから日本のコンビニエンスストアが大好きです。アメリカとは違い本当に便利だと思います。原宿のファッションや洋服もとても好きで，持っていたお金を全部使ってしまいました。食べ物もとてもおいしかったです。新鮮で栄養バランスがとれていてアメリカではあまり味わえないものでした。

５．受入れ側の感想（抜粋）

◆　ホストファミリー（グループ A）

日本語がとても堪能であったため，ほとんど英語を使うこともなく，子供たちも日本語で会話を楽しんでいました。長女は同世代でしかも同性ということもあり，特に交流を楽しんでいました。最初は，彼女たちのために布団を 2 セット用意していたのですが，彼女たちから長女と一緒に 3 人で寝たいという要望があり，2 つの布団に 3 人で寝ていました。とても微笑ましかったです。

◆　ホストファミリー（グループ B）

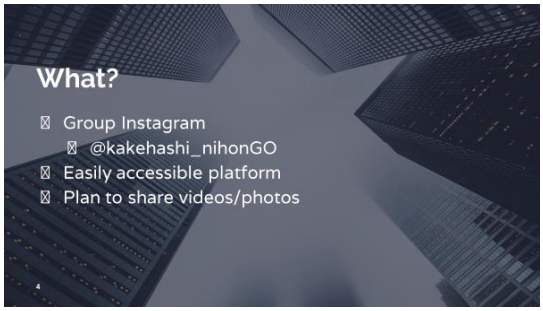
初めての受け入れで緊張しましたが，とても日本語が上手な子供たちだったので，スムーズな会話ができました。食事もほとんど残さず食べてくれて，安心しました。子供たちに浴衣を着せて，明治時代の邸宅でお抹茶をいただきました。写真もたくさん撮っている姿に喜んでくれた様子でした。子供たちは，御朱印を集めていると聞き神社にも行きました。ほかに藍染め体験にも行きました。娘にも良い経験になったようです。どうもありがとうございました。

６．参加者の対外発信

ホームステイについての発信（Instagram） ホストファミリーと札幌を探検！	ホームステイについての発信（Instagram） 私たちのホストファミリー，札幌の周りを案内してくださってありがとうございます。
学校交流についての発信（Instagram） 子供のころからの夢である弓道をしました。的には当たりませんでしたが，この経験は忘れられないものとなりました。アメリカでも弓道クラブがほしいです。私は，弓道の的を当てるまでの優雅な動きが好きです。これはアメリカのスポーツでは見ることができない瞬間だと思います。	ホームステイについての発信（Instagram） 鹿内家での二日間は短い時間でしたが，この時に本当の家族になった気がしました。家族の皆さんは，心から私を歓迎してくれました。ホームステイは旅行では味わえない本当にすばらしい経験です。ホームステイを通して私は日本について多くのことを知ることができ，家族との絆はずっと続くものだと実感できました。

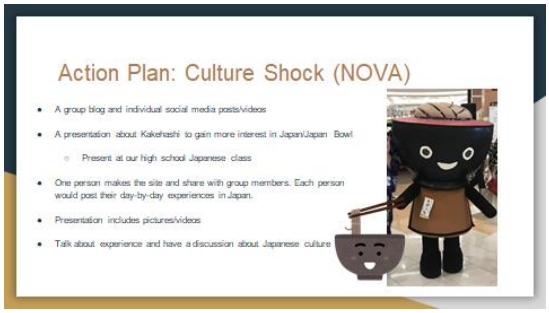
	短い間でしたが，多くの愛情もいただきました。また最終日は，大好きな唐揚げを作って下さり，駅で見送っていただきました。

7．報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
アクション・プランの発表（グループ A） ・@カケハシ__日本 GO というインスタグラムのグループを作る。 ・誰もがアクセスしやすいプラットフォームに写真やビデオを共有する。 ・帰国後に始め，2～3 か月続ける。 ・将来のカケハシ・プロジェクトの参加者への情報提供となる。 ・グループインスタグラムを作る。 ・写真やビデオをアップロードする。 ・個人的な経験を書く。 ・大きなコンセプトについて話す（例：ライフスタイル，食べ物，質の良い品物，など）	アクション・プランの発表（グループ B オンタリオ州） ・地域の学校の他文化交流委員会と協力しておにぎり作りや茶道体験などのワークショップ，日本のファッションショーやクイズ大会を開催する。 ・5 月半ばの多文化週間に参加する。 ・友人や教師たちにジャパンボウルへの参加を促す。 ・ジャパンボウルの地域大会でカケハシ・プロジェクトについてのプレゼンテーションや情報提供を行う。

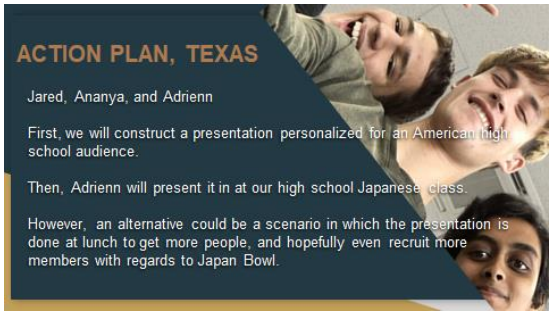
アクション・プランの発表（グループ B サンノゼ市）
・新学期開始後，日本語の授業で詳細なプレゼンテーションを行い，ジャパンボウルを発信する。
・ジャパンクラブや JNHS と協力し，茶道や書道体験等の日本文化体験活動等を企画する。
・カケハシ・プロジェクトについてまとめた短い動画を作る。
・今回の素晴らしい体験について発信できるブログまたはソーシャルメディアアカウントを作成する。

アクション・プランの発表（グループ B ロサンゼルス市）
・インスタグラムやフェイスブックでは，家族や友人たちに向けてファイルをアップロードする。
・様々な写真や動画をファイルに集め，8 月末までに，写真や動画を一般向けに公開する。
・学校職員，教員，学生向けに映像を用いたブログを共有し，今回の体験について語り合う。



アクション・プランの発表（グループ B カルチャーショック NOVA）
・グループブログや個人でソーシャルメディアに動画を紹介する。
・高校の日本語の授業で，カケハシ・プロジェクトについて発表し，日本やジャパンボウルについてもっと興味を持ってもらう。
・専用サイトを作り，今回参加したメンバーと日本滞在中の日々の体験を投稿する。
・写真や動画で日本について発表する。
・日本での経験を語り，日本文化について話し合う。

アクション・プランの発表（グループ B バンクーバー市）
・9 月後半の昼休みに発表を行う。ジャパンボウルでの経験と今回のカケハシ・プロジェクトについて発表する。
・ジャパンボウル参加希望者への次の内容の研修をする。（言葉，情報，歴史，文化などについて／基礎的な日本語／日本で暮らしたい人のための情報）
以上の方法で日本およびジャパンボウルに対する全般的な興味を促進する。



アクション・プランの発表（グループ B テキサス州）

・参加者それぞれがアメリカの高校生に向けてのプレゼンテーションを作成する。

・高校の日本語の授業で個々が作成したプレゼンテーションの資料を使って発表する。昼休みを使って発表し，より多くのジャパンボウルへの参加を促す。

アクション・プランの発表（グループ B メリーランド州）

・カケハシ・プロジェクトのプレゼンテーション資料を作り，エレノアルーズベルト高校の日本語の授業で発表する。

・カケハシ・プロジェクトの内容を SNS に投稿する。

・家族や友人に今回の経験を伝える。

・カケハシ・プロジェクトについての動画を作って宣伝し，カケハシ・プロジェクトへの興味関心を促す。

アクション・プランの発表（グループ B ニューヨーク州）

・写真を撮りソーシャルメディア（フェイスブック，インスタグラム，スナップチャット）に投稿して友人にホームステイや訪問先などの様子を共有する。

・実際に経験したことを友達に語り情報提供をする。

・家族や友達に（日本で買い求めた日常品などの）「おみやげ」を渡す。